

すべては、一人ひとりの子どもが 自分らしく成長できる学びのために

広島県 福山市教育委員会 教育長 **三好雅章**^{まさあき}

「福山100NEN教育」として、授業・評価・組織の改革を進める広島県福山市。教員の授業観の転換を図る施策の根底にあるのは、子どもが自身の価値観で学びを進めていく学校教育の実現だと、三好雅章教育長は語る。

みよし・まさあき 広島県福山市立中学校で社会科教諭として勤務。広島県教育委員会、福山市教育委員会、福山市立一ツ橋中学校校長を経て、2014年7月から現職。

授業・評価・組織を転換し、 次の100年を築く子どもを育成

中学校教諭や校長経験の中で、悩み、迷いながらも必死に伸びようとする子どもを大勢見てきました。内面をうまく表現できないだけに、暴れば暴力や非行、内にこもれば引きこもりや不登校と周囲に言われ、次第に自分のよさを発揮できなくなる子どももいます。そうした状況を変えなければならぬと、ずっと思っていました。今、教育長として、すべての子どもが自分らしく学び、成長できる教育の実現を目指しています。

施策の軸となるのは、授業・評価・組織の転換です。子どもが自分らしく学ぶために、自ら考え学ぶ授業と、数値による結果のみならず、一人ひとりの学習過程を評価することを求めています。その実現には、校長のリーダーシップの下、全教職員が意見を出し合い、協働できる組織が必要です。

2016年には、市政施行100周年を受け、次の100年を築く子どもの育成を目指して「福山100NEN教育」を宣言しました。それは、3年間の準備を経て2015年度に市内全校で始

めた小中一貫教育を、「人間性を育む」「つながりを尊重できる個人を育む」といったESD^{*1}の観点でつなぎ、学んだことを日常の様々な場面で行動化する確かな学びを目指すものです。各中学校区で定めた育成すべき資質・能力に向け、各教科等や学校行事等に関連づけたカリキュラム・マップを作成し、教育活動を進めています。

教科や学年を超えて学びを 関連づけ、生きた力を育む

子どもの学力で最も課題に感じているのは、言語能力です。2017年度に小学校2校を「学びづくりフロンティア校」に指定し、1年生の国語と算数の授業をほぼ毎日映像等で記録しながら、学ぶ過程を明らかにしました。その中で、例えば文を読み、計算はできても、たった3行の文章から式を立てられないなど、言葉の意味を認識できていない場面が多く見られました。生活の中で言葉をつかむ経験や、得た知識を他教科の授業や生活の中で活用することが少ないからです。

2018年度からは、そうして明らかになった学ぶ過程に即し、教科や学年の枠を超えたカリキュラムを編

成・実施する「学びづくりパイロット校」を11校で始めました。各校は、子どものつぶやきや興味・関心から柔軟に授業を展開する中で、個々に異なる学ぶ過程に応じ、既存の評価のあり方も見直しています。通知表などの数値による評価ではなく、子どもの作品や振り返り等を綴じた「学びファイル」で、子どもや保護者との面談を始めた学校もあり、9割超の保護者から「子どもの頑張りがよく分かる」という声をいただいています。

「評価」の転換では、2018年度から、埼玉県が実施している学力調査を2つの中学校区で試験的に始めました。IRT^{*2}の手法を使い、小4～中3を継続して調査し、その結果から学力や自己効力感、学習意欲などの非認知能力の伸びを、子ども自身が自覚できます。個の状況や学級集団の変化から、教職員のどんな取り組みや意識が学力等を伸ばすのかを見ることがもできます。教職員研修では、伸びた学級の指導について、全員が気づきを出し合うなど、意欲的な姿が見られました。今年度からは市内全校で同調査を実施し、学力及び非認知能力を測定します。

* 1 Education for Sustainable Development の略。「持続可能な開発のための教育」と訳される。環境、貧困、人権、平和、開発などの様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことで、課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すことや、それによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動のこと。

* 2 Item Response Theory の略。項目反応（応答）理論と呼ばれるテスト設計の理論のこと。



さらに、個を伸ばす学びづくりを牽引するため、2022年度、小学校1校を「イェナプラン教育校*3」として開校します。移行期の今年度は、1～3年生で異年齢集団での授業や特別活動などを始めました。また、長期欠席等により、教育上の配慮が必要な子どもを対象とした小・中一体型「特認校」も、2022年度の開校を目指して準備中です。他にも、集団で学ぶことが難しい児童生徒が、1人でも興味・関心があることから始められる校内フリースクール「きらりルーム」を小学校2校と中学校6校に、校外フリースクール「かがやき」を市内3か所に設置してきました。また、2019年度から5年計画で、すべての学校図書館において、知的好奇心を高める図書やリラックスして読書できる環境の整備を進めるなど、多様な学びの場づくりに取り組んでいます。

それぞれの学びの場での実践を通じて、多くの教職員や保護者が子ども

の学ぶ姿に触れ、授業観や評価観を転換していくことを期待しています。

固定観念にとらわれず、「学びが面白い!」を追求

「福山100NEN教育」3年目の2018年度からは、「子ども主体の学び～学びが面白い!～」をテーマに、すべての子どもが内発的動機に基づいた学ぶ意欲を発揮できる授業づくりに取り組んでいます。具体的な方法ばかりを示していると、それを行うことが目的になりがちです。「どう教えるか」から「子どもがどう学ぶか」の視点で授業観を転換し、自ら実践できるよう、各校への訪問時に授業を見て、「学ぶとは?」「教えるとは?」ということを教職員と本音で対話することを大切にしています。

今年度は、「固定観念・成功体験のリングから踏み出す」をスローガンに掲げました。図らずもコロナ禍でその早期実現を迫られることになり、私

は臨時休業中、教職員に「一斉にできなくても、できることから始めよう」「若手教員のアイデアも大切にしよう」と伝え続けました。各校は、ICT環境が不十分な中でもオンラインでの課題提示や動画配信、アンケート実施など、「使えるものから、できることから」という意識で、子どもの状況把握や家庭学習の支援に努めました。子どもたちへ届く愛情溢れる先生方の取り組みに、感動さえ覚えました。

今後は、文部科学省の「GIGAスクール構想」の実現に向け、今年度予算で全児童生徒に1人1台のタブレット端末を貸与します。子どもが文房具のような感覚で、学校・家庭・校外など、使う場所を限定せず自分のものとしてフル使用できるようにするとともに、校務の効率化も進めます。そして、「福山100NEN教育」のデジタル化による「子ども主体の学び～学びが面白い!～」の深化を、教職員と一緒に追求していきます。

広島県福山市 プロフィール



◎広島県の東部、岡山県との県境に位置する中核都市。戦後、山陽・山陰と四国を結ぶ産業・文化・交通の要衝として発展し、高度経済成長期には重工業主体の産業都市となる。2011年度には、教育学部と都市経営学部を擁する福山市立大学を開学。人口 約46万7,000人 面積 約518.14km² 市立学校数 小学校74校、中学校33校、義務教育学校1校、中高一貫校1校 児童生徒数 約37,000人 電話 084-928-1183 (学びづくり課) URL <https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/kyoiku/>

*3 ドイツのイェナ大学で生まれ、オランダで普及した教育。異年齢のグループで学びを進めるのが特徴で、一人ひとりの発達や個性を大切に、自律と共生を重視する。